

滝ダムからのお知らせ

8月30日の台風10号の大雨による洪水及び浸水により被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

滝ダムでは、長内川下流域にお住まいの皆様へ、滝ダムをより知って理解を深めていただくため、ダムの放流操作や台風10号時の放流状況等についてお知らせを作成しましたので、家庭内や会社内でご覧いただき、今後の大雨に対する備えをしていただくと幸いです。

放流操作とサイレン・放送の基本

※流入量：湖に入ってくる水量
※ m³/s：1秒間に流れる水量の単位

滝ダムがどのような放流操作を行い、どのような時にサイレン・放送があるのかをまとめました。

○通常時の放流

洪水・渇水に備えた水位維持目的の放流

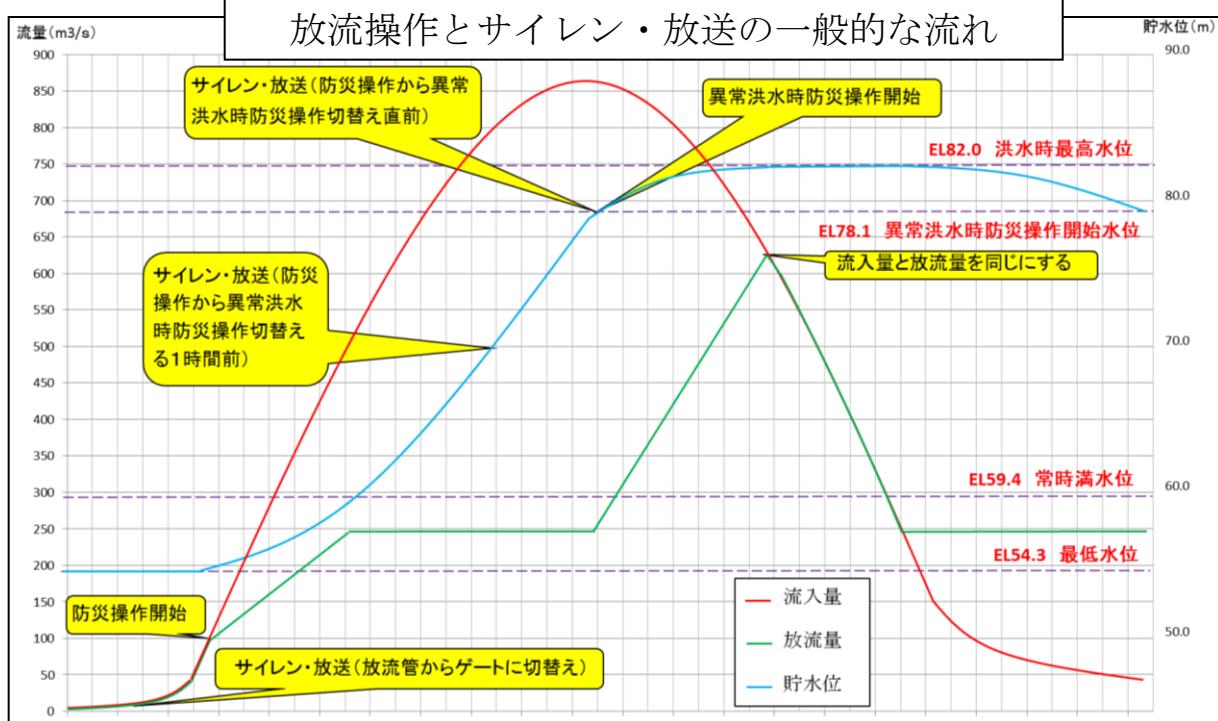
- ・放流管による放流量 0m³/s～約10m³/s (少量調節用)
↓ **切替える前にサイレン・放送有** (河川に近づかないでください)
- ・ゲートによる放流量 約10m³/s～100m³/s

○洪水時の放流

- 1 川の増水を抑制する放流 (防災操作)
 - ・ゲートによる放流量 100m³/s～250m³/s
流入量100m³/s～480m³/s 流入量変化により一定割合を貯留
流入量480m³/s以上 250m³/sを放流し、それ以上を貯留
↓ **下記操作開始1時間前と放流直前にサイレン・放送有**
- 2 ダムが満水に近づき、ダムを越流させないための放流 (異常洪水時防災操作)
 - ・ゲートによる放流量 250m³/s以上
ダムの水位が異常洪水時防災操作開始水位EL78.1mを超えた以降に放流量を増加させ、洪水時最高水位EL82.0mを超える前に流入量と放流量を同じにする。
この操作は、ダム下流の河川水位が高い状態でも行わなければならない操作ですが、流入量以上に放流量を増やすことはなく、いわばダムが無かったときの状態のようにする操作です。

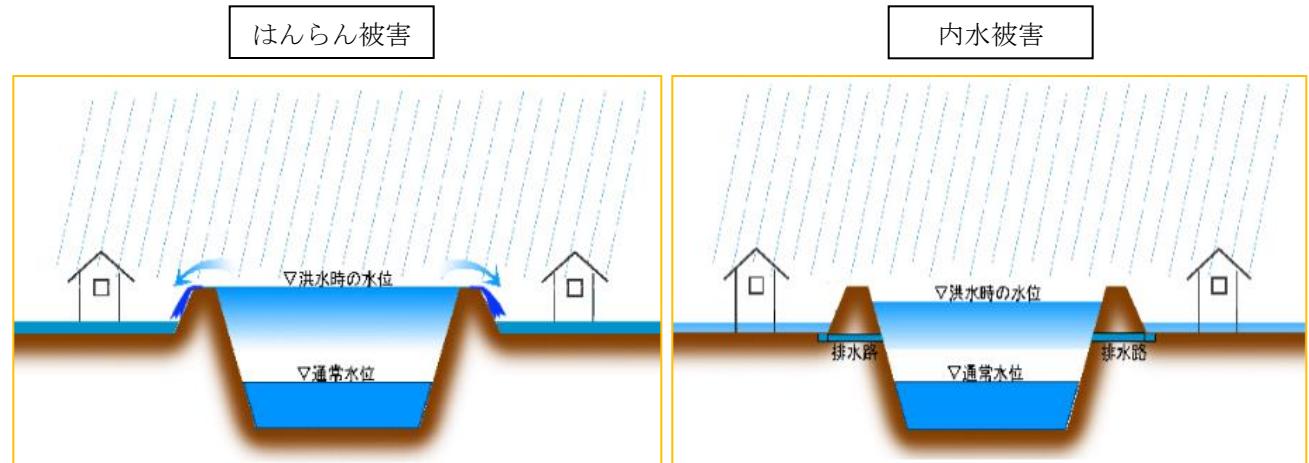
○予備放流

- 大雨に備えて必要なダムの洪水調節容量を確保・維持するための放流
- ・放流管及びゲートによる放流量 0m³/s～100m³/s・・・通常時の放流と同様



洪水被害の種類

- はんらん被害・・・川の水が堤防を越える、または堤防の決壊により住宅地などに水が流れ込んで浸水することによる被害。
- 内水被害・・・川の水位が高くなると、住宅地などに降った雨が川に排水できなくなるため、水が溜まっていきます。この時の排水できずに溜まった水により浸水する被害。



河川・ダムの情報収集方法

長内川や久慈川を含む県内の河川の水位情報のほか、雨量・ダム情報などがご覧いただけます。河川水位・雨量・ダム情報が1時間及び、10分間隔で更新され常に最新のデータを見ることができます。大雨などの時の情報収集等にご利用ください。

岩手県河川情報システムのQRコード



(スマホ用)



(ガラケー用)

トップページ画面

※河川情報メール配信サービスもあります。

岩手県河川情報システム (<http://kasen.pref.iwate.jp/iwate/servlet/Gamen30Servlet>)

お問い合わせ先
岩手県県北広域振興局土木部滝ダム管理事務所
TEL 0194-59-3838 FAX 0194-59-3371

台風10号時の滝ダムの放流状況

洪水調節・放流操作等について

※番号は右のグラフに対応しています。

①洪水調節

20時頃に最大流入量毎秒約839m³のうち、約583m³を貯留し（洪水調節を行い）、下流の水位低減を図りました。

②21時40分からの放流

通常、流入量に等しくなるまで放流量を増加させますが、翌日以降の降雨予報が無いこと、雨が止み流入量が減少してきたこと、下流の水位が高い状態だったことから、放流量を抑制しながら放流し、洪水時最高水位EL82.0mまでダムに貯めました。
これは、下流の被害を軽減するため貯留量を増やして容量を有効に活用する操作で「特別防災操作」と呼ばれています。

③ダム水位低下のための放流

下流河川の水位を低下させるために、夜間は洪水時最高水位EL82.0mを維持し、31日の早朝に下流堤防等の安全確認を行い、6時頃よりダムの水位を低下させるための放流を開始しました。

○予備放流

過去最大の降雨が予想されたため、28日の15時から貯水位を最低水位EL54.3mにするための放流を行いました。

○平成20年放流計画の変更

平成18年に起こった長内川の洪水被害を踏まえて、平成20年に放流計画を変更したことにより、今回の洪水では多くの水量をダムに溜め込むことができました。

ダム下流河川の状況

○はんらん被害状況

ダム下流の長内川本川のはんらん被害は確認されませんでした。（下流支川は除く）

○ダムからの放流量増加後の下流河川水位

長内橋の最高水位は、放流前の20時と21時で5.1m、放流後の23時にも5.1mでした。
ダムからの放流量を増加させても放流前より水位が高くならなかったのは、抑制しながら放流したことと、下流支川からの水量が減ったためと考えられます。

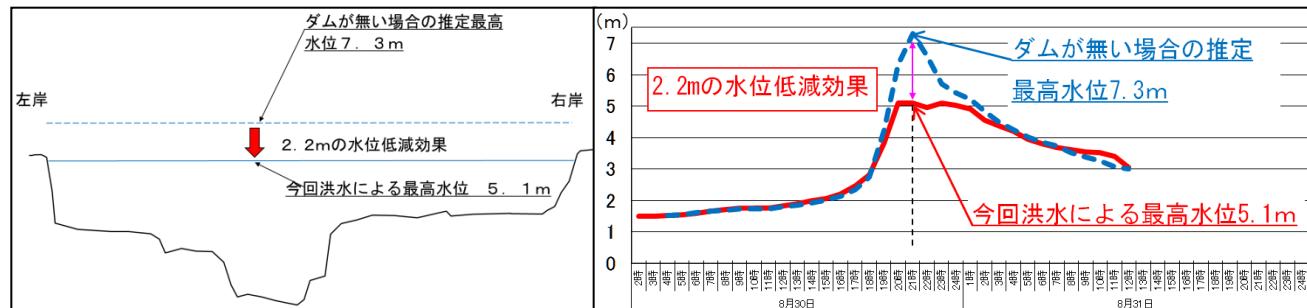
○ダムが無い場合の下流河川水位

長内橋の水位は、仮に全量この地点まで流れてきた場合、今回の洪水水位より2.2m水位が高く7.3mであったと推定されます。

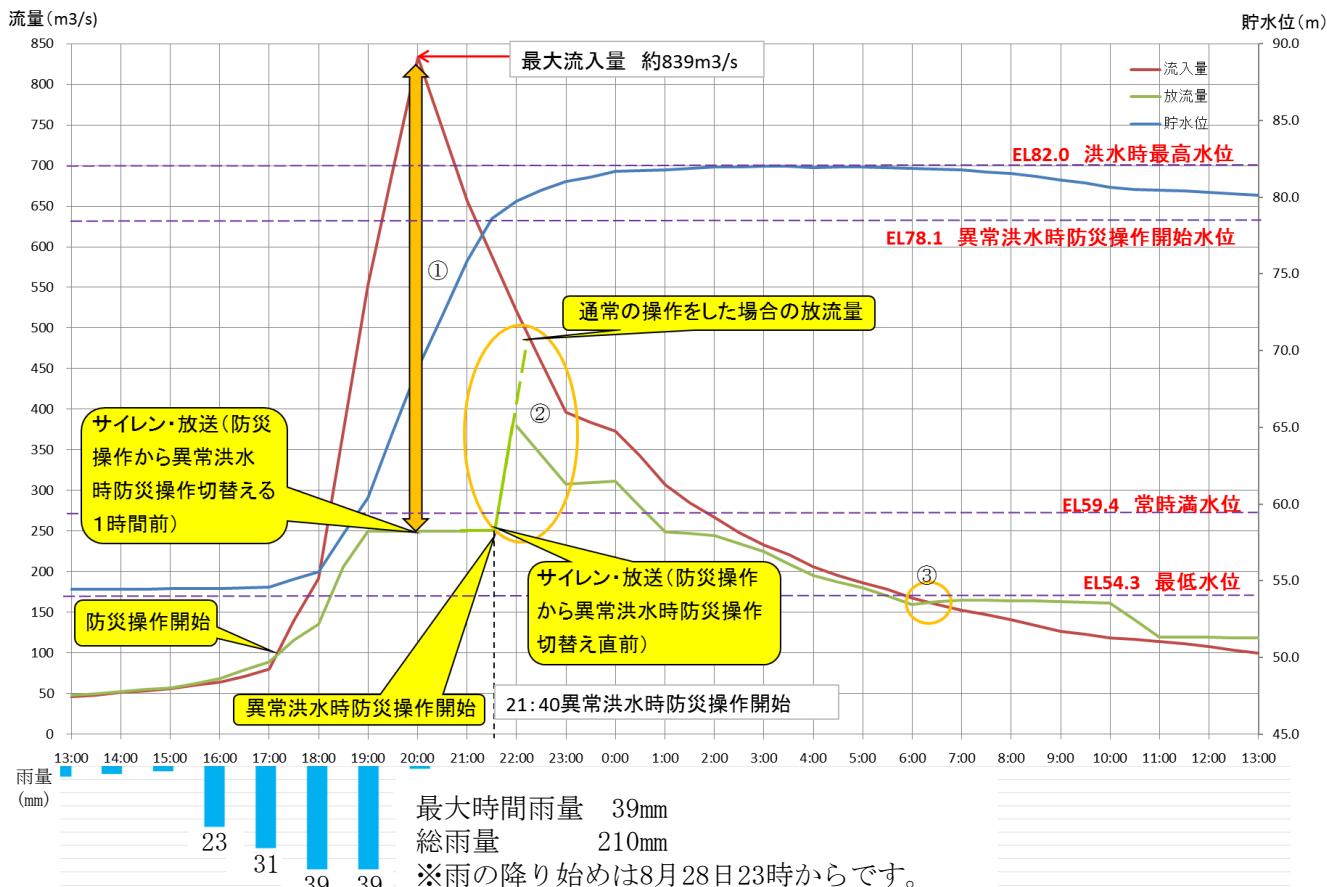
※水位低減効果は、精査の結果、H28.11時点で2.1→2.2mに修正しました。

※下流支川とは、小屋畑川、大沢田川などです。

■長内橋基準点の水位低減効果



台風10号時の滝ダムグラフ



ダム完成以降の主な洪水記録

順位	洪水年月	最大流入量 (m ³ /S)	総雨量 (mm)
1位	H28.8	839	210
2位	H11.10	356	252
3位	H23.9	293	207
4位	H18.10	290	294

※総雨量とは、ダムに水が集まる範囲に降った雨の平均雨量です。
※最大流入量で順位を決めています。



8月31日 朝5時頃の最大水位時の状況

ダムからのお願い

○今回と同程度の大雨が予測される場合

今回の洪水は、あと少し雨が長く降っていれば長内川本川でもはんらん被害が起きていておかしくない危険な状況でした。ダムにも限界があります。計画以上の洪水の場合には、流入した水量をそのまま放流するしかできなくなることをご理解願います。

○異常洪水時防災操作時のサイレン・放送があった場合

このときは、ダム下流の河川水位が高い状態でも、ダムからの放流量を急激に増加させるので、はんらん被害の発生する可能性が極めて高くなりますので、早急に避難行動をとるようにお願いします。

○大雨や洪水への備え

天気・降雨予報や河川・ダムの情報をこまめに確認し、日中の明るい安全な時間帯で浸水への備えや早めの避難行動をとるようにお願いします。